

令和 7 年 7 月 8 日

東員町議会

議長 南部 豊 様

東員町議会 議員 大崎昭一

## 研修報告書

研修期間	<u>令和 7 年 7 月 2 日 (水) ~ 3 日 (木)</u>
研修 (視察) 先	1 日目 福井県おおい町議会 2 日目 石川県津幡町議会
目的 (テーマ等)	1, 議会改革、通年議会について 2, 能登半島地震及び豪雨災害時における議会の対応について
参加議員名 (複数の場合)	南部豊、川瀬孝代、三宅耕三、水谷喜和、島田正彦、山崎まゆみ、 三林浩、大谷勝治、片松雅弘、伊藤治雄、広田久男、山田由紀子、 大崎昭一
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

〔議員氏名：大崎昭一〕研修概要、内容、所感1日目  
おおい町議会での研修について

〈概要〉

おおい町の人口は2025年7月1日現在3,296世帯、7,650人。

令和7年度一般会計当初予算は122億6800万円。うち原発関連収入額は766億6400万円で一般会計予算の62.5%になります。

政策の重点として、

- 1, “もっと”「子育てにやさしい町」の充実
  - 2, 「企業誘致」と「起業支援」
  - 3, 「災害に強いまちづくり」の強化
  - 4, 「交流」と「つながり」の活性化
- を掲げています。

関西電力大飯原子力発電所が4基ありますが、1号機、2号機は運転開始から40年近く経過したことにより2017年12月22日に廃炉にすることを正式に決定しました。(日本経済新聞)

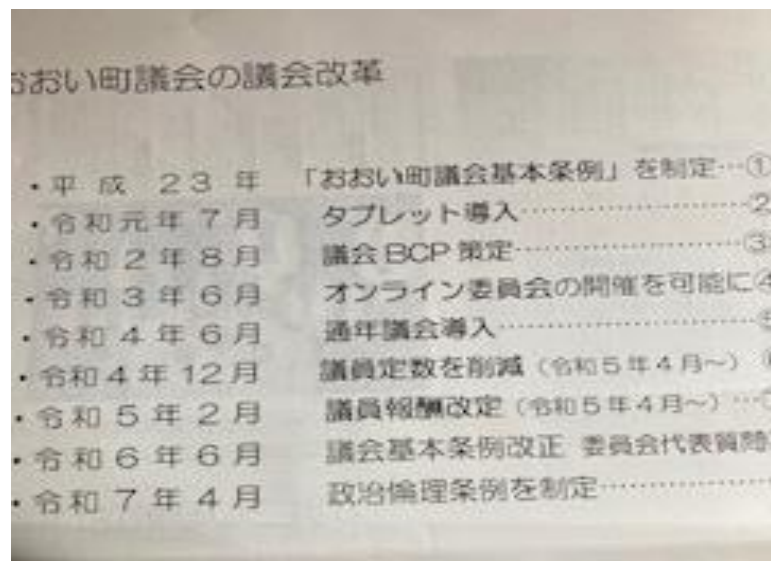
現在は3号機、4号機が運転開始から40年経過しているが、原子力規制委員会が2024年6月26日に運転を認可したことにより稼働しています。



〈内容〉

「議会改革」にあたっては、まさに息長く、根気よく議論を積み重ねて取り組まれたことを詳しく説明頂きました。以下10項にわたっての活動を説明頂いた。

- ① 議会基本条例
- ② タブレット導入
- ③ 議会BCP策定
- ④ オンライン委員会
- ⑤ 通年制議会導入
- ⑥ 議員定数削減
- ⑦ 議員



報酬の検討 ⑧委員会活動の活性化 ⑨議員政治倫理条例の制定 ⑩議会活性化への取り組み ⑩の1 議会運営 ⑩の2 委員会活動の活性化 ⑩の3 住民参加、議会の見える化。

2011年に議会基本条例を可決制定するにあたっては、2008年12月

に「議会活性化特別委員会」を設置し2年半にわたり議論を深めて明文化しています。

「議会基本条例」策定を皮切りに「通年制議会導入」「議員定数削減」「住民参加、議会の見える化」等の実現に向け一連の議会改革を成し遂げるまで、足掛け18年に及んでいます。とりわけ、「通年制議会導入」にむけては、コロナ禍の中、5年間かけてじっくり取り組まれています。

<所感>

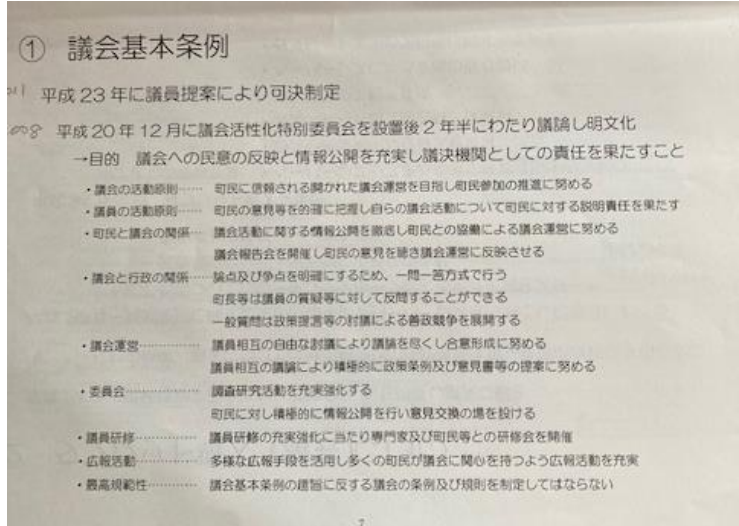
説明をいただいた議長、副議長の言葉に重いものを感じました。印象に残る言葉を記します。

住民のために、住民の願いを実現させる、そのためにがんばる議会、当然の役割。

「なんのために」の根拠を大切に、議論を組み立てる。

継続が大切。議員全員13名が一体になる。意見の相違、賛成・反対は当然ある。提案者が丁寧に親切に説明をして理解を深める。タブレット導入については単なるペーパーレスの視点だけでなく、議会の活動原則に基づくことを原点にして繰り返し議論し、反対者には丁寧に説明をして理解を深め合った。事務局の熱意と連携なしには実現しなかった。理事者側とも細かく膝を突き合わせて協議を重ねた。

中でも、「委員会活動の活性化」では、2024年9月定例会で「委員会代表質問」を



行い、委員会議論の総意を委員長による代表質問で、「デマンドバス広域化」の提言を行い、2025年度当初予算に計上の実現を見ることができた。予算額は実証実験として332万9千円が計上されたことは特筆である。

本町議会においては、町民福祉拡充にむけての政策・施策を提言できる議会になるための努力が肝要であることを学びました。

以上

## 2日目

### 石川県津幡町議会

能登半島地震及び豪雨災害時における議会の対応について

#### <概要>

津幡町は、面積110キロ平方メートル、人口37,500人、内灘町、かほく市に隣接しており、金沢市には電車で15分、車で約20分と交通至便で、金沢市のベッドタウンとして宅地開発で人口が増加した町であるが、現在人口は横ばいです。「津幡町平和都市宣言」を平成4年3月に決議しています。

河北潟に渡り鳥ハクチョウが飛来することから町の鳥は「ハクチョウ」です。

第75代横綱大の里（25歳）の生まれ故郷であり、庁舎正面玄関には「祝 横綱昇進 大の里関」の垂れ幕がありました。また庁舎一階ロビーには4体のマスコットが来庁者を優しく迎えてくれていました。

#### <内容>

<1>2024（令和5）年7月12日午後9時頃から線状降水帯による顕著な大雨が降り、津幡町の降水量は1時間で80mmに達しました。

<2>翌年1月1日午後4時10分マグニチュード7.6、最大深度7の巨大地震が能登地方を震源として発生し、津幡町は震度5弱の災害に見舞われました。

相次ぐ自然災害に対し、津幡町の行政と町議会が対応したことを学び、南海トラフ大地震が予測されるいま、本町議会が災害対応について取り組むべきことを研修しました。

#### <豪雨災害、地震災害への対応>

- 「津幡町議会災害対応行動マニュアル（平成28年9月制定）」に基づき議会は、議長から、全議員の安否確認、被災情報の提供を議会事務局へ集中するよう依頼した。



- 議員の安否確認、被災状況を確認後、議会災害支援本部を設置し、被災写真で町内の情報共有をした。
- 議長が町対策本部会議にオブザーバーとして出席し情報共有を図る。
- 避難所にデジタルキーボックスを新設した。
- 避難所運営における備品はワンタッチ方式テント50張(3万円)を用意していた。
- 避難所運営での主体的役目は町職員が務めた。
- 災害の教訓として、議会全員協議会で防災訓練を行っている。
- 議長指示に基づく全議員の安否確認、町内の被災状況の情報収集は、タブレットの(L I N E W O R K S)が役立った。
- 町内の陥没道路等復旧の取り組みはまだこれから10年は必要である。



<所管>

日本列島は地震災害、台風豪雨災害は歴史的にみても避けて通ることはできない。昨今では、地球温暖化による気象異常、線状降水帯が頻発している。

半年余の間に、集中豪雨、巨大地震に相次いで見舞われた津幡町の被害の実情について、視察研修の機会を得たことは、南海トラフ地震が30年の間に発生する確率が80%と予知されており、参考にすべき事柄は大きかった。



特別公務員としての議会議員である私自身が改めて災害についての心構えを見つめなおす機会になりました。

災害、事故等と言われるところの、“自分は大丈夫だろう”との「正常性バイアス」や“みんなと一緒にだから”との「同調バイアス」が人間の心理反応として無意識的に働くと、心理学では言われています。

このことは、公人として、議会人として仕事をするうえで大切と考える認識が重要であることを再確認しました。

いつ災害が起きても不思議ではないときに、“東員町は大丈夫だろう”、“津波はないだろうから”、とする「正常性バイアス」「同調バイアス」的思考を排除しなくてはなりません。

巨大災害が発生したら被害をゼロにすることは不可能であっても、人命にかかわる被害は最小限にしなくてはなりません。

そのためには、災害発生前、つまり平時において、家屋倒壊防止、避難所運営等の備えを万全にすることが求められます。

住民の生命と生活を守るためには、①災害発生前＝平時、②災害発生直後の初期行動、③避難所運営等、④復旧、⑤復興 と状況変化に適合する業務が段階ごとに行わなくてはなりません。

このことは、平時において事態予測を適切判断のもと行政が予算化することと住民への周知が肝要です。

そのために議会は行政執行部へ施策の提案をしていくことが大切と考えます。

津幡町では、マサカと思うことが半年間に2度も発生し、その対応を経験されました。この体験から学ぶべきことは多であります。

何よりも議会はベテラン、新人が混在し、各議員が町民の負託を得ている人間集団で

